

2桁で割る割り算の筆算のやり方を わかりやすく解説（練習問題）

2けた÷2けたの筆算

48 ÷ 23 を筆算を使って計算しなさい。

まず、わり算の筆算は次のように書いたよね。

2	3	/	48

家の屋根みたいな記号を使って、
わられる数が家の中で、わる数が外に出るんだよね。

わる数 / わられる数

さっそく筆算をしていこう。

48って、十の位と一の位があるんだけど、筆算をするときには、十の位と一の位、順番に計算をするんだ。



まずは、十の位だけをわり算するよ。

なので、一の位は「ちょっとまっていてね」と、手でかくしてしまおう。

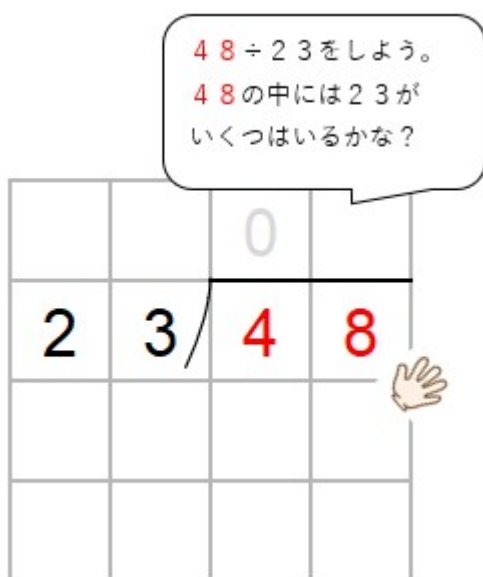
一の位をかくすと、 $4 \div 23$ になるね。

ただ、わりきれないから、商に「0」をたてよう。



ここで「かくしていた一の位」の出番だよ。

48の中に23がいくつ入るか考えよう。



コツは、十の位の数に注目して、かりの商をたてること。

48 → 40

23 → 20として考えると、40の中に20は2つ入るよね。

だから、とりあえず商として「2」をたてておこう。

かりの商の見つけ方（商の見当をつける コツ）

・わられる数、わる数を、何十の数と見て、商を見つける

$$\begin{array}{c} 48 \div 23 \\ \downarrow \quad \downarrow \\ 40 \quad 20 \end{array}$$

十の位を見ると、
40の中に20は2つ
入るよね。

		0	2
2	3	4	8

次に、わる数23と一の位の上にたてた2をかけた数を48の下に書くよ。



			2
2	3	4	8
		4	6

2 3 と 2 をかける

4 8 から 4 6 をひくよ。

			2
2	3	4	8
		4	6
			2

4 8 から
4 6 をひく

ここでチェックすることがあったね。

ひき算した数がわる数 2 3 より小さいかをかくにんしよう。

2 は 2 3 より小さいから OK だね。

			2
2	3	4	8
		4	6
			2

わる数 2 3 より
小さいかチェック



ということは、かりの商「2」は正しいことがわかるよ。
答えは「 $48 \div 23 = 2$ あまり2」と求めることができたね。

かりの商がちがっていた場合

かりの商がちがっていたら、「筆算の計算がどうなるのか」や「どうしたらいいのか」をしょうかいするね。

かりの商を小さくする場合

$68 \div 23$ で一の位の上にたつ商を考えよう。

$68 \div 23$ をしよう。
 68 の中には23が
 いくつはいるかな？

2	3	6	8

コツは、十の位の数に注目して、かりの商をたてることだったね。

$68 \rightarrow 60$

$23 \rightarrow 20$ として考えると、 60 の中に 20 は3つ入るよね。

だから、とりあえず、商として「3」をたてておこう。



十の位を見ると、
60の中に20は3つ
入るよね。

			3
2	3	6	8

次に、わる数23と一の位の上にたてた3をかけた数を68の下に書くよ。

			3
2	3	6	8
		6	9

23と3をかける

68から69をひきたいんだけど、ひくことができないよね。

			3
2	3	6	8
		6	9
			!

68から
69をひく



かりの商「3」がちがうんだ。

だから、かりの商「3」を1つ小さくしてみよう。

			3				2
2	3	/	6	8			
			6	9			

ひけない !

							2
2	3	/	6	8			
			4	6			

2 3 と 2 をかける

あとは、今まで同じように筆算をしていけばいいね。

6 8 から 4 6 をひくよ。

			2	
2	3	/	6	8
			4	6
			2	2

6 8 から
4 6 をひく

ここでチェックすることがあったね。

ひき算した数がわる数 2 3 より小さいかをかくにんしよう。

2 2 は 2 3 より小さいから OK だね。



			2
2	3	6	8
		4	6
		2	2

わる数23より
小さいかチェック

かりの商がちがっていると、ひき算ができなくなるんだ。
そういうときは、かりの商を1つ小さくするといいよ。

かりの商を大きくする場合

68 ÷ 23で一の位の上に「1」をたてたとしてよう。

			1
2	3	6	8

次に、わる数23と一の位の上にたてた1をかけた数を68の下に書くよ。



			1
2	3	6	8
		2	3

2 3 と 1 をかける

6 8 から 2 3 をひこう。

			1
2	3	6	8
		2	3
		4	5

6 8 から
2 3 をひく

ここでチェックすることがあったね。

ひき算した数がある数 2 3 より小さいかをかくにんしよう。

ひき算した数は 4 5 だから、わる数より小さくないよね。

ということは、かりの商「1」がまちがっていることになるんだ。

だから、かりの商「1」を1つ大きくしてみよう。



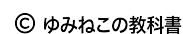
かりの商がちがっていると、ひき算したあとの数が「わる数」より大きくなるんだ。

そういうときは、かりの商を1つ大きくするといいよ。

153 ÷ 24 を筆算を使って計算しなさい。

2	4	/	1	5

10



まずは、百の位だけをわり算するよ。

なので、十の位と一の位は「ちょっとまわっていてね」と、手でかくしてしまおう。

十の位と一の位をかくすと、 $1 \div 24$ になるね。

ただ、わりきれないから、商に「0」をたてよう。

$1 \div 24$ はわりきれないから、0がたつ

		0		
2	4	1		

ここで「かくしていた十の位」の出番だよ。

15の中に24がいくつ入るか考えよう。

ただ、わりきれないから、商に「0」をたてよう。

$15 \div 24$ はわりきれないから、0がたつ

		0	0	
2	4	1	5	
				



最後に「かくしていた一の位」の出番だよ。
153の中に24がいくつ入るか考えよう。

153 ÷ 24 をしよう。
153の中には24が
いくつはいるかな？

		0	0		
2	4	/	1	5	3

コツは、十の位の数に注目して、かりの商をたてること。
153 → 150
24 → 20として考えると、150の中に20は7つ入るよね。

だから、とりあえず商として「7」をたてておこう。

150の中に20は
7つ入るよね。

		0	0	7	
2	4	/	1	5	3

次に、わる数24と一の位の上にたてた7をかけた数を153の下に書
よ。



				7	
2	4	/	1	5	3
			1	6	8

24と7をかける

153から168をひきたいんだけど、ひくことができないよね。
 ということはかりの商「7」がちがうんだ。
 だから、かりの商「7」を1つ小さくしてみよう。

				7	
2	4	/	1	5	3
			1	6	8

2 4 と 7 をかける

				6	
2	4	/	1	5	3
			1	4	4

2 4 と 6 をかける

あとは、今まで同じように筆算をしていけばいいね。
 153から144をひくよ。

				6	
2	4	/	1	5	3
			1	4	4
					9

1 5 3 から
1 4 4 をひく



ここでチェックすることがあったね。

ひき算した数がわる数24より小さいかをかくにんしよう。

9は24より小さいからOKだね。

				6	
2	4	/	1	5	3
			1	4	4
わる数2 4 より 小さいかチェック					9

わる数24より
小さいかチェック

答えは「 $153 \div 24 = 6$ あまり9」と求めることができたね。

713 ÷ 41 を筆算を使って計算しなさい。

わり算の筆算は次のように書いたよね。

4	1	/	7	1	3

713って、百の位と十の位と一の位があるんだけど、筆算をするときには、百の位と十の位と一の位、順番に計算をするんだ。

まずは、百の位だけをわり算するよ。



なので、十の位と一の位は「ちょっとまっていてね」と、手でかくしてしまおう。

十の位と一の位をかくすと、 $7 \div 41$ になるね。
ただ、わりきれないから、商に「0」をたてよう。

$7 \div 41$ はわりきれないから、0がたつ

		0		
4	1	7	✋	✋

ここで「かくしていた十の位」の出番だよ。
 71 の中に 41 は1つ入るよね。

$71 \div 41$ をしよう。
 71 の中に 41 は1つ入るね。

		0	1	
4	1	7	1	✋
			✋	

わる数 41 と一の位の上にたてた1をかけた数を 71 の下に書くよ。



		0	1	
4	1	7	1	👉
		4	1	
41と1をかける				

71から41をひこう。

			1	
4	1	7	1	👉
		4	1	
71から 41をひく		3	0	

ひき算した数がわる数41より小さいかをかくにんしよう。
30は41より小さいからOKだね。

			1	
4	1	7	1	👉
		4	1	
わる数41より 小さいかチェック		3	0	



最後に「かくしていた一の位」の出番だよ。
一の位の「3」を下におろそう。

			1		
4	1	/	7	1	3
			4	1	
			3	0	3

一の位の3をおろす

303の中に41はいくつ入るかを考えよう。

			1		
4	1	/	7	1	3
			4	1	
			3	0	3

303 ÷ 41 をしよう。
303の中に41はいくつはいるかな。

コツは、十の位の数に注目して、かりの商をたてること。

303 → 300

41 → 40として考えると、303の中に40は7つ入るよね。

だから、とりあえず、商として「7」をたてておこう。



300の中に40は
7つ入るよね。

			1	7	
4	1	/	7	1	3
			4	1	
			3	0	3

次に、わる数41と一の位の上にたてた7をかけた数を303の下に書いてひき算するよ。

			1	7	
4	1	/	7	1	3
			4	1	
			3	0	3
			2	8	7
				1	6

41と7をかける

303から
287をひく

ここでチェックすることがあったね。
ひき算した数がわる数41より小さいかをかくにんしよう。
16は41より小さいからOKだね。



			1	7
4	1	7	1	3
		4	1	
		3	0	3
		2	8	7
			1	6

わる数4 1より
小さいかチェック

答えは「 $7 \mid 3 \div 4 \mid = \mid 7 \text{ あまり } \mid 6$ 」と求めることができたね。

2けたでわる筆算の練習問題

84 ÷ 20 を筆算を使って計算しなさい。

わり算の筆算は次のように書いたよね。

2	0	8	4



84って、十の位と一の位があるんだけど、筆算をするときには、
十の位と一の位、順番に計算をするんだったよね。

まずは、十の位だけをわり算するよ。

なので、一の位は「ちょっとまわいてね」と、手でかくしてしまおう。

一の位をかくすと、 $8 \div 20$ になるね。

ただ、わりきれないだから、商に「0」をたてよう。

8 ÷ 20 はわりきれないから、0がたつ

		0	
2	0	/	8



ここで「かくしていた一の位」の出番だよ。

84の中に20がいくつ入るか考えよう。

84 ÷ 20 をしよう。
84の中には20がいくつはいるかな？

		0	
2	0	/	84




コツは、十の位の数に注目して、かりの商をたてること。

$84 \rightarrow 80$

として考えると、 80 の中に 20 は4つ入るよね。

だから、とりあえず、商として「4」をたてておこう。

十の位を見ると、
80の中に20は4つ
入るよね。

			4
2	0	/	8

十の位を見ると、
 80 の中に 20 は4つ
入るよね。

次に、わる数 20 と一の位の上にたてた 4 をかけた数を 84 の下に書くよ。

			4	
2	0	/	8	4
			8	0
20と4をかける				

20 と 4 をかける

84 から 80 をひくよ。



			4
2	0	8	4
		8	0
84から 80をひく			4

ここでチェックすることがあったね。
ひき算した数がある数20より小さいかをかくにんしよう。
4は20より小さいからOKだね。

			4
2	0	8	4
		8	0
わる数20より 小さいかチェック			4

ということは、かりの商「4」は正しいことがわかるよ。
「 $84 \div 20 = 4$ あまり4」と求めることができたね。



60 ÷ 19 を筆算を使って計算しなさい。

わり算の筆算は次のように書いたよね。

1	9	/	6 0

60 って、十の位と一の位があるんだけど、筆算をするときには、十の位と一の位、順番に計算をするんだったよね。

まずは、十の位だけをわり算するよ。

なので、一の位は「ちょっとまわいてね」と、手でかくしてしまおう。

一の位をかくすと、6 ÷ 19 になるね。

ただ、わりきれないよね。だから、商に「0」をたてよう。

		0	
1	9	/	6 

6 ÷ 19 はわりきれないから、0 がたつ



ここで「かくしていた一の位」の出番だよ。
60の中に19がいくつ入るか考えよう。

60 ÷ 19をしよう。
60の中には19が
いくつはいるかな？

		0	
1	9	/	60

コツは、十の位の数に注目して、かりの商をたてること。

19 → 10

として考えると、60の中に10は6つ入るよね。

だから、とりあえず、商として「6」をたてておこう。

十の位を見ると、
60の中に19は6つ
入るよね。

		0	6
1	9	/	60

次に、わる数19と一の位の上にたてた6をかけた数を60の下に書くよ。



			6
1	9	6	0
	1	1	4

19と6をかける

どう考えても60から114はひくことができないから、かりの商「6」を1つ小さくしよう。

			6
1	9	6	0
	1	1	4

19と6をかける

			5
1	9	6	0
		9	5

19と5をかける

60から95はひくことができないから、かりの商「5」を1つ小さくしよう。

			5
1	9	6	0
		9	5

19と5をかける

			4
1	9	6	0
		7	6

19と4をかける



60から76はひくことができないから、かりの商「4」を1つ小さくしよう。

			4
1	9	6	0
		7	6
19と4をかける			

			3
1	9	6	0
		5	7
19と3をかける			

60から57をひくことはできるから、商は「3」になることがわかったね。

あとは今まで同じように60から57をひこう。

			3
1	9	6	0
		5	7
60から57をひく			

ここでチェックすることがあったね。

ひき算した数がある数19より小さいかをかくにんしよう。

3は19より小さいからOKだね。



			3
1	9	6	0
		5	7
わる数19より 小さいかチェック			3

「 $60 \div 19 = 3$ あまり 3」と求めることができたね。

684 ÷ 21 を筆算を使って計算しなさい。

わり算の筆算は次のように書いたよね。

2	1	6	8	4

684って、百の位と十の位と一の位があるんだけど
筆算をするときには、百の位と十の位と一の位、順番に計算をするんだ。

まずは、百の位だけをわり算するよ。

なので、十の位と一の位は「ちょっとまわっていてね」と、手でかくしてしまおう。

十の位と一の位をかくすと、 $6 \div 21$ になるね。

ただ、わりきれないから、商に「0」をたてよう。



6 ÷ 2 1 はわりきれないから、0 がたつ

		0		
2	1	/	6	 

ここで「かくしていた十の位」の出番だよ。
6 8 の中に 2 1 は 3 つ入るよね。

6 8 ÷ 2 1 をしよう。
6 8 の中に 2 1 は 3 つ入るね。

		0	3	
2	1	/	6	8 
				

わる数 2 1 と一の位の上にたてた 3 をかけた数を 6 8 の下を書くよ。



		0	3	
2	1	6	8	👉
		6	3	
21と3をかける				

68から63をひこう。

			3	
2	1	6	8	👉
		6	3	
68から 63をひく				

ひき算した数がある数21より小さいかをかくにんしよう。
5は21より小さいからOKだね。

			3	
2	1	6	8	👉
		6	3	
わる数21より 小さいかチェック				

最後に「かくしていた一の位」の出番だよ。
一の位の「4」を下におろそう。



			3		
2	1	/	6	8	4
			6	3	
			5	4	

一の位の4をおろす

54の中に21はいくつ入るかを考えよう。

54 ÷ 21 をしよう。
54の中に21は
2つ入るよね。

			3	2	
2	1	/	6	8	4
			6	3	
				5	4

次に、わる数21と一の位の上にたてた2をかけた数を54の下に書いてひき算するよ。



			3	2	
2	1	/	6	8	4
			6	3	
			5	4	
21と2をかける			4	2	
54から 42をひく			1	2	

ここでチェックすることがあったね。
ひき算した数がある数21より小さいかをかくにんしよう。
12は21より小さいからOKだね。

			3	2	
2	1	/	6	8	4
			6	3	
				5	4
				4	2
わる数21より 小さいかチェック			1	2	

答えは「 $684 \div 21 = 32$ あまり12」と求めることができたね。



「わり算の筆算のやり方（2けたでわる筆算）」まとめ

- ・ わられる数、わる数を、何十の数と見て、かりの商を見つける。
- ・ かりの商がちがっていると、ひき算ができなくなる。
そういうときは、かりの商を1つ小さくする。
- ・ かりの商がちがっていると、ひき算したあとの数が「わる数」より大きくなる。そういうときは、かりの商を1つ大きくする。

